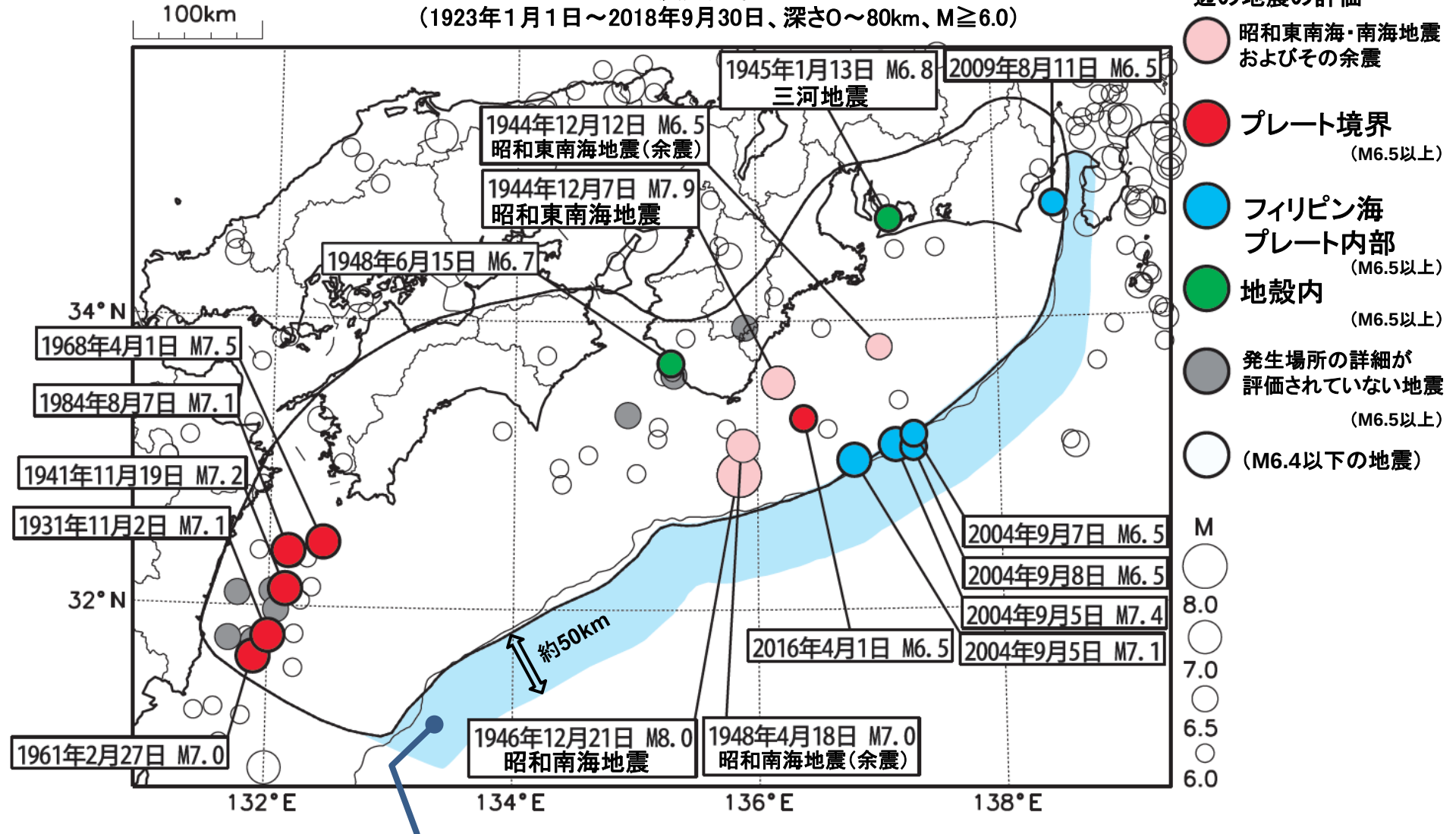


南海トラフにおける地震発生について

南海トラフにおける過去の地震発生について

震央分布図

(1923年1月1日～2018年9月30日、深さ0～80km、M $\geq$ 6.0)



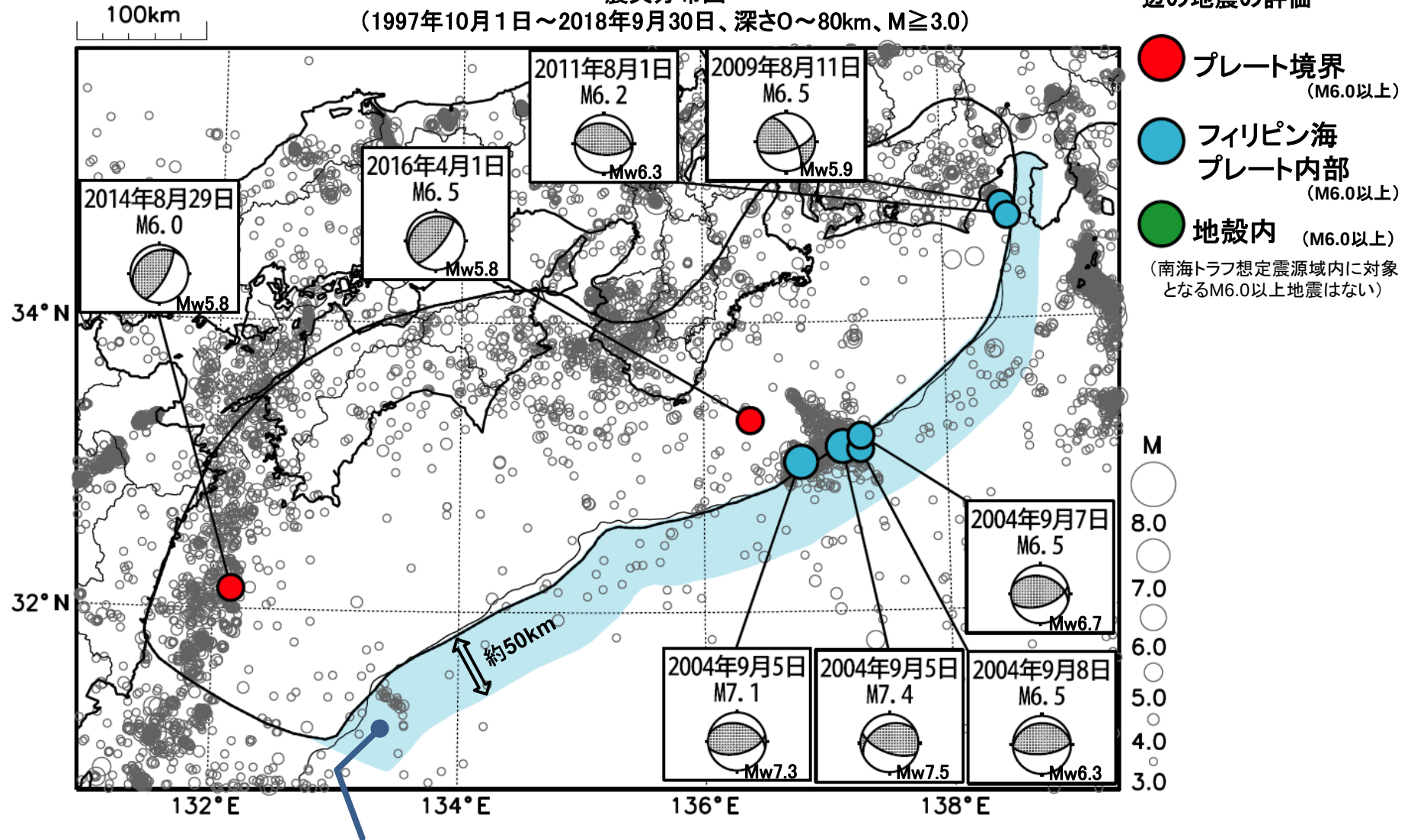
海溝軸外側で発生した地震のうち、一部割れケースの地震と同様に取り扱う領域。

南海トラフ想定震源域周辺の地震について、地震調査研究推進本部の評価等により発生場所が明確であるものについては「●プレート境界」「●フィリピン海プレート内」「●地殻内」と色をつけている。発生場所の詳細が明確でないものは「●詳細不明」と色をつけている。
海溝軸外側で発生した地震のうち、一部割れケースの地震と同様に取り扱う領域は、M7.0程度の震源断層(約45km)を踏まえ、海溝軸外側約50kmまで拡張した範囲を示している。震源断層の長さについては、Mと断層長(L)の経験式(宇津の式: $\log(L) = 0.5M - 1.85$)を使用している。

南海トラフにおける最近の地震発生状況について

震央分布図

(1997年10月1日～2018年9月30日、深さ0～80km、 $M \geq 3.0$)



海溝軸外側で発生した地震のうち、一部割れケースの地震と同様に取り扱う領域。

南海トラフ想定震源域周辺の地震について、地震調査研究推進本部の評価等により発生場所が明確であるものについては「●プレート境界」「●フィリピン海プレート内」「●地殻内」と色をつけている。

発震機構解は気象庁のCMT解を用いている。Mwは気象庁で求めた値を示している。

海溝軸外側で発生した地震のうち、一部割れケースの地震と同様に取り扱う領域は、M7.0程度の震源断層(約45km)を踏まえ、海溝軸外側約50kmまで拡張した範囲を示している。

震源断層の長さについては、Mと断層長(L)の経験式(宇津の式: $\log(L) = 0.5M - 1.85$)を使用している。